

Ⅲ 委員会活動

医学研究倫理委員会

文責／小野 剛

◎目的

玉川病院内で施行される“人を対象とした医学的研究および医療行為”を対象として、新たなエビデンスの確立を目指し、科学的・倫理的配慮に基づいて臨床試験を審議・改善・認証することを目的とする組織である。ヘルシンキ宣言(1964年採択、2013年フォルタレザ[ブラジル]最新修正)の趣旨に沿って、かつ、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(文部科学省、厚生労働省、経済産業省)等に準拠し審査を行う。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：小野 剛(診療部)

診療部：菅野 純

医療技術部：北岡 晃

看護部：高橋由美子

事務部：伊藤 一、小野崎佳彦、石川裕弥

外部委員：東京都立大学 網本 和

東京工業大学 三宅美博

◎開催日

小委員会：第2水曜日、午後4時30分

本審査：第4水曜日、午後5時30分

◎活動報告

審査総数：21件(本審査3件、迅速審査18件、
審査取下げまたは対象外0件)

審査結果：承認19件、条件付き承認2件

申請の際、研究者はICR臨床研究入門(https://www.icrweb.jp/icr_index.php)の“臨床試験の基礎知識講座”でe-ラーニングによる基礎知識を習得し受講修了証の提出を必須としている。倫理審査においては文部科学省・厚生労働省・経済産業省が示す「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」を使用。円滑でより厳格な審査を行うため、本審査前に院内委員による事前委員会で申請案件の審査方法(迅速審査、本審査)の判定を行っている。

◎今後の目標

研究者・研究機関・倫理審査委員会をはじめとする全ての関係者が、高い倫理観を保持し、人を対象とする医学系研究が社会の理解および信頼を得て社会的に有益なものとなるよう適切に対応していく。

医療安全管理委員会

文責／杉山 恵

◎目的

医療事故の発生・再発を予防し「医療の質」の確保と「安全な医療」「患者安全」を実施するための医療安全全体の充実を図る。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：今村吉彦

診療部：和田義明、大石陽子

医療安全管理室：杉山 恵

感染管理室：横溝直子

看護部：高橋由美子、大池由貴子、斎藤 郁、武井英美

医療技術部：北岡 晃、井上博満、菅野将敏、

千葉哲也、小林 仁、矢口直美

事務部：佐藤佳子

◎開催日

第4水曜日、午後4時

◎活動報告

・今年度の医療安全目標は、患者誤認「ゼロ」とし医療安全活動をおこなった。

1/A報告では、アクシデント事例が1件発生し患者誤

認発生率は全体の5.1%を占め、昨年度4.29%を上回る結果となった。

・医療安全ラウンド(月1回)

今年度はラウンド実施期間を「医療安全ラウンド週間」と定め、5Gに分かれ各部署2回から3回、計37部署のラウンドを実施した。「患者誤認」「誤薬防止」「説明と同意」「転倒転落」「急変対応」等共通項目を掲げ、職員の安全に対する意識の向上を目的に活動を行った。

・業務改善

①緊急要請E-Call体制の再考に重きをおき活動を行った。WGチームを立ち上げ、緊急時の対応と体制を整備した。年度末意識調査を実施し職員のE-Callに対する理解度は99%の結果であった。

②9月C T画像診断報告書の確認不足事例が発生し、画像診断報告体制の整備を行った。これまでの「確認報告」から「対応確認」までをダブルチェックする監査体制の強化を構築した。

③その他下記の業務改善を行った

・院内使用シリンジの種類と使用目的の一覧表作成

- ・採血室患者椅子の変更
- ・面会室ボタン式コールの設置(3西)・地下1階ミラーの設置
- ・地下1階トイレ緊急呼び出しブザー設置・生理検査室前患者待機場所院内案内表示の変更
- ・外来患者誤認防止への体制整備
- ・医療安全ハンドブックの改訂(第3版)

◎今後の目標

- ・自主的に報告できる組織風土の醸成
- ・アクシデント発生の低減
- ・予期せぬ死亡事例の減少
- ・自律した確認作業の実施と安全を高める組織力の向上

感染対策委員会

文責／横溝直子

◎目的

医療関連感染予防対策を適正かつ円滑に遂行するための検討を行い、職員に周知徹底を図り、医療関連感染を減少させる。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：齋藤和幸

診療部：和田義明、岩渕千雅子、田中望未、高澤玲子

感染管理室：横溝直子、高野綾香、田川誠二、古賀一将、飛知和澄子

医療安全管理室：杉山 恵

看護部：高橋由美子、谷川まゆみ、村本七奈、各看護単位看護師1~2名、介護科2名

医療技術部：北岡 晃、酒匂啓輔、松村彩子、原 慶、秋山愛理

事務部：佐々木栄三、渡邊侑李、五十嵐さよ子

◎開催日

第2火曜日、午後4時

◎活動報告

- ・手指衛生遵守率向上のための取り組み
5月より手指衛生の質の評価(直接観察法)を開始し、スタッフに直接指導を行い、手指衛生の理解が深まった。直接観察ワークシートを作成、2月にLNへ検温時の手指衛生のデモンストレーションを行った。3月に看護部中央メンバーで検温時の手指衛生のタイミングの動画を作成した。病棟全体の手指衛生指数は8.4となり、2021年度より目標にしていた8を漸くクリア、直接観察の遵守率は56%であった。
- ・血液培養採取率向上のための取り組み
血液培養採取マニュアルを作成、eラーニング「血液培養のベストプラクティス」をNS、ME、救命士対象に行い、95%が視聴した。血液培養2セット採取率は93.2%に上昇した。(前年比+3.5)
- ・COVID-19対応
5月8日より感染症法の取り扱いが5類に変更となった。院内の感染対策や院内発生時の対応を徐々に緩和した。12月に病院主催のクリスマスパーティーにて職員30名の大規模クラスターが発生した。幸い患者への感

染はなかったが再発防止のため、ICCで振り返りを行った。東2階病棟でクラスターが発生した際には東2階リンクスタッフによる振り返りを行った。職員が契機となった患者の感染は3件発生した。

- ・針刺し・切創12件(前年比-2)
血液・体液曝露4件(前年比-1)
ルールを逸脱したために発生した針刺し3件
- ・リンクスタッフによる部署の感染管理改善活動
感染管理に関する各部署の問題点をあげ、改善活動を行った。
- ・ICCレクチャー
ビーフリード輸液の投与時間の短縮、バンコマイシン血中濃度の採血タイミング(田川)、海外渡航歴・ペット接触歴問診の重要性(飛知和)、高度耐性菌感染対策(横溝)
- ・リンクスタッフ勉強会(担当：高野)
4月：リンクスタッフの役割、5月：手指の培養実験(演習)、6月：手指の培養の考察(演習)、7月：手指衛生のタイミング、患者ゾーンと医療エリア、8月：薬剤耐性菌、9月・12月：デバイスサーベイランスフィードバック、11月：サージカルテープ携帯による汚染、12月・1月：手指衛生直接観察フィードバック、2月：手指衛生シミュレーション
- ・デバイスサーベイランス
CLABSI発生率(CVCのみ対象)2.48(前年比-0.18)
2.66、使用比0.06(前年比±0)
CAUTI発生率1.67(前年比-0.28)、使用比0.16(前年比+0.01)
- ・その他取組
廃棄物分別一覧表作成、手荒れ用ハンドソープの導入、感染管理システムの更新

◎今後の目標

- ・ルールを逸脱したために起こった針刺し・切創、皮膚・粘膜曝露 年3件未満
- ・全病棟手指衛生指数12回以上 手指衛生直接観察遵守率病棟全体70%以上
- ・COVID-19対策 職員から患者への感染伝播が疑われ

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

- ・事例が発生しない
- ・CLABSI発生率2.4未満(ベンチマーク75%マイル未満)
- ・CAUTI発生率1.0未満(ベンチマーク50%マイル未満)

メンタルケア・ハラスメント委員会

文責/大司俊郎

◎目的

定期的にストレスチェックを行い、職員のメンタルケア・ハラスメントの有無をチェックし、高い健康リスク者へのケアの取り組みや職場のハラスメントに対応する。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：大司 俊郎(診療部)

看護部：小川マツ子

医療安全管理室：杉山 恵

(ジェネラルリスクマネージャー)

医療技術部：元良俊太、澤田祐子

診療支援部：水高優子

事務部：佐々木栄三

オブザーバー：保坂 隆

(保坂サイコオロジー・クリニック院長)

◎開催日

第2木曜日、午後4時

◎活動報告

1.メンタルケア

- ・職場のメンタルヘルス対策を行うため、ストレスチェックを行った。本年度もチェック項目は57項目で、仕事上でのストレスの原因、ストレスによる心身の反応、その他のストレス要因、健康リスクを評価した。

実施日：2023年8月28日～9月25日、実施率：90.3%

仕事上でのストレスの原因：働きがいや仕事のコントロールに関しては全国平均以下であったが、仕事の質、身体的負担が高かった。ストレスによる心身の反応は全国平均で、総合健康リスクは104とやや

全国平均(100)より高かった。組織診断の結果をもとに各部署で職場改善計画を立案し評価を行った。来年度はストレスチェックの実施回数や組織診断結果の活用方法の検討をしていきたい。なお高リスクの個人に対しては保坂医師の面談・受診を勧めている。

2.ハラスメント

- ・「職員の声」ポストから：投書11件(面談希望9件、環境整備などについて2件)

相談事項は職場の人間関係に関する内容が多く、ハラスメントに関しては医師や職場上司によるパワハラであった。対応が困難な事例に関して院長に進言し解決をはかっている。また、院長より職員に対しハラスメント防止のためのメッセージを新入職者や新年のあいさつ等で発信して頂いている。

- ・来年度管理者向けのハラスメント研修の実施と、一般職員へのeラーニングを実施し、ハラスメントの正しい知識と行動ができる体制づくりをしていきたい。

- ・面談希望者は本人の同意を得て対象者に対し委員数名がヒアリングを行い、その後委員会にて共有し方向性を検討した。

◎今後の目標

職場のハラスメントが高ストレスや作業能率の低下につながり、さらに新たなハラスメントを生み出す土壌となるので、風通しのよい職場環境を構築すべく、メンタルケア対策やハラスメント研修を強化し職員個々の意識を高めていきたい。

総合的質管理(TQM)委員会

文責/高橋康訓

◎目的

2019年にホスピタリティー委員会と教育研修委員会が統合して発足した委員会。患者・職員満足度調査およびTQM(Total Quality Management)活動を継続し、その内容を分析し病院の質の保持・向上へつなげる。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：高橋康訓(診療部)

診療部：大石陽子

看護部：澁谷喜代美、栗原真希、大竹順子

医療技術部：小林 仁、松村彩子、小倉敬史、

小林悟史、梅津美奈子

診療支援部：船橋達也、菅原由樹、橋本史子、和田哲馬

事務部：伊藤 一、柳川花菜子、松坂加寿美

◎開催日

第3月曜日、午後4時

◎活動報告

- ・新入職オリエンテーション：2023年4月3日に新入職者（約80名）に対しオリエンテーションを行った。コロナ禍のため開始前8時半から出席者の体温チェックを施行した。院長からの玉川病院のビジョン・ミッションについての説明から始まり、個人情報保護、感染対策、医療安全、災害対策などについて担当者から説明された。
- ・TQM活動：前年に引き続き対面で第14回TQM発表会を開催した。6月10日キックオフミーティング、11月11日プレ発表を行い、2024年1月27日（土）に本発表会を開催。テーマは「イノベーション」、全9チームがエントリーし約45名が参加した。優勝は「福利厚生改善チーム」であった。次年度以降TQM推進協議会に入会し、全国大会への参加も視野に入れた活動を検討していく。
- ・職員満足度調査：ESナビゲーターⅡ（日本経営（株））を使用し2023年2月13日～3月19日に施行した。回答者/対象者=586/716名、回答率81.8%であった。前年と比較し全体的な改善傾向を認めたが、給与面や仕事に対する評価、教育制度について更なる改善が望まれた。また自部署の重要性や目標の明示を求める要望もあり、それらを踏まえ2月24日から管理者研修を開始した。また理事長や院長・副院長から職員に対して、玉川病院の方針や今後の展望などについてのメッセージ

- を配信していただいた。
- ・患者満足度調査：アンケート用紙を配布し調査を行った。入院患者：調査期間2023年7月18日～8月14日、対象患者数477件に対し回答件数184件、回答率38.6%。外来患者：調査期間2023年11月6日～11月11日、対象患者数3,489件に対し回答件数1,299件、回答率37.2%。総合評価は「とても満足」と「満足」を合わせると概ね80～90%と良好な結果であった。
- ・患者からの投書：年間投書数は462件（要望121件、意見127件、感想214件）であった。月毎に集計し、ご指摘の声に対しては担当部署にフィードバックし改善点を検討している。職員の接遇に対するご指摘が多かったことを踏まえ、院内にポスターを掲示し注意喚起を行った。またご要望の代表例とその対応策をホームページに掲載・公開している。

◎今後の目標

- ・病院機能評価認定病院の機能を維持する。
- ・TQM活動は、院内における日頃の疑問点や改善点などをテーマとし、さまざまな職種で具体的な対策を考え病院の改善や進歩につなげていく活動である。職員のモチベーションを高め、活発化させていきたい。
- ・患者および職員満足度調査の結果を正しく評価しその分析を進め、フィードバックしていく。
- ・患者からの投書に対し真摯に対応していく。

特定行為研修管理委員会

文責／大石陽子

◎目的

特定行為看護師育成、看護師特定行為研修に関する研修管理、指導体制の整備、研修修了後の特定行為看護師に対する活動のサポートを行う。

◎メンバー（2024.3現在）

委員長：大石陽子（診療部）
 診療部：和田義明、栗原正利、今村吉彦、石井一之、森田瑞生、岩渕千雅子
 看護部：高橋由美子、澁谷喜代美、木幡典子
 医療技術部：北岡 晃
 事務部：佐々木栄三、小野崎佳彦、柳川花菜子
 外部委員：長嶋久美子
 （世田谷区医師会立看護高等専修学校）

◎開催日

年数回

◎活動報告

【特定行為看護師研修】

- ・今年度（第五期）は4名に対し、下記の特定行為について研修を実施した（研修期間：2023年6月～2024年5月）。さらに、院外より1名の研修生を受け入れた。

- ①栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理：peripherally inserted central catheter：PICC）関連2名
 - ②感染に関わる薬剤投与関連1名
 - ③褥瘡または慢性創傷の治療における血液のない壊死組織の除去・創傷に対する陰圧閉鎖療法2名
 - ④持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整・脱水症状に対する輸液による補正4名
- ・共通科目と区分科目のスケジュール作成、講師の依頼。講師として11名の医師と2名の薬剤師にご協力をいただいた。
 - ・演習や実習のサポート

【特定行為看護師活動状況】

- ・2024年3月現在、16名の特定看護師が診療の現場で活動し、特定行為研修の教育およびサポートを行っている。
- ・特定行為研修フォローアップ研修：玉川医師会にて玉川特定行為地域交流会の開催（2024年1月26日）
- ・特定看護師活動報告会開催—1年間の活動報告—（2024年3月6日）

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

・特定看護師活動状況：

- ①栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理；peripherally inserted central catheter：PICC)関連5名
- ②褥瘡または慢性創傷の治療における血液のない壊死組織の除去・創傷に対する陰圧閉鎖療法7名
- ③創部ドレーン管理関連3名
- ④透析管理関連1名
- ⑤胸腔ドレーン管理1名
- ⑥感染に関わる薬剤投与関連2名
- ⑦持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整・脱水症状に対する輸液による補正16名

◎今後の目標

- ・2024年度から新規で2区分(動脈血ガス分析関連・血糖コントロールに係る薬剤投与関連)の増設をする。
- ・診療現場における特定行為看護師の活躍の場を拡大する。
- ・特定行為看護師研修修了者に対する卒後教育の充実。
- ・地域の訪問診療医および看護ステーションとの交流を深める。
- ・近隣看護ステーションにおける特定看護師育成システムの構築

臨床研修管理委員会

文責／齋藤和幸

◎目的

初期研修医の研修目標であるプライマリケアの習得および医師としての人格の育成を支える委員会である。研修プログラムの作成・管理および研修医の採用・中絶・修了を決定する。E-Portfolio of Clinical training for PostGraduates:PG-EPOCによる臨床研修評価システムを含めた評価等々、臨床研修実施に関してその統括管理を行う。

内科専攻医に対して研修履歴・実績を登録し、Online system for Standardized Log of Evaluation and Registration of specialty training System：J-OSLER研修プログラム下で総合内科専門医取得を目標としてその研修を評価・管理する。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長・プログラム責任者：齋藤和幸

診療部：和田義明、石井一之、朝木千恵、野谷啓之

看護部：澁谷喜代美

事務部：佐々木栄三、小野崎佳彦

協力型臨床研修病院の研修実施責任者：

並木 温(東邦大学医学部卒後生涯教育センター長)
計9名(敬称略 順不同)

◎開催日

定期開催：年4回

◎活動報告

2023年度は基幹型：1・2年次2名ずつ、東京医科歯科大学協力型：1年次2名が研修した。必修科目は内科(28週)、救急(8週)、麻酔(8週)、外科(9週)を1年目、小児科(4週)、産婦人科(4週)、精神科(4週)、地域(4週)を2年目に、総合内科外来を週2日研修した。小児科は成育医療研究センター病院、精神科は都立松沢病院、地域研修は玉川クリニック、日産厚生会診療所、ふくろうクリニックで行った。PG-EPOCにより臨床研修評価、基本

的臨床能力評価試験(JAMIP)により知識全般を評価した。

2023年4月～2024年1月で約30回、指導医などによる研修医セミナーを開催(表1)。

2023年8月19日に初期研修医(2024年度)の入職採用試験を実施した。

2024年1月24日に基本的臨床能力試験を、2月19日院内研究発表会(YIA)を開催した(p.46参照)。

2024年3月25日修了証書授与式を開催した

◎2023年度初期研修医の総評

1. 研修状況について

全ての初期研修医がスケジュール通りに進み、経験目標・行動目標など問題なく、長期欠勤なく研修が出来た。日当直業務は、約4回/月で当直明け午後を半休とした。

2. 研修医セミナーについて(表1)

年間40回の開催で前年度より増え、アンケートを行いより充実したプログラムを開催できた。

3. 学会・研究会発表実績について(p.20以降参照)

全ての初期研修医は年1回学会発表を行い、YIAで発表し、最優秀演題に対しては表彰した。

4. 修了判定について

2024年3月11日の委員会において上記1～4の結果から研修医2名を研修修了とした。

◎2023年度内科専攻医の総評

内科専攻医5年次1名は修了見込みとなったが1名は継続中である。

◎今後の目標

1. 学術集会、研究会や論文による発表の促進。院内では抄読会や症例検討会での発表。
2. PG-EPOCの360度評価をもとに、チーム医療の大切さとコメディカルとの協力体制を確立する。

- 3. 研修医セミナーにおいて医療安全、臨床倫理、感染対策など病院横断的なテーマの拡充をはかる。
- 4. 研修医の技術習得レベルを定期的にチェックする。
- 5. 昨年度と同様に初期研修医にはメンター制度を導入

- し、各研修医を知識面、技術面、精神面からsupportしてレベルアップ、脱落防止を図る。
- 6. 内科専攻医にはチューター制度を導入し、彼らのJ-OSLER進行具合などtotalサポートを行っていく。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

(表1) 研修医セミナー2023年度

	日程		テーマ	担当講師
1	4月19日	水 17:00	輸液の基本、水電解質輸液、栄養剤試飲	大塚製薬
2	4月26日	水 17:00	末梢ルート確保	脳神経内科 齋藤和幸
3	5月10日	水 17:00	研修医が知っておきたい医薬品安全使用の基礎知識	薬剤科 北岡 晃
4	5月17日	水 17:00	よく使う薬の禁忌、注意事項	薬剤科 北岡 晃
5	5月24日	水 17:00	胸部X線読影入門	呼吸器内科 田中望未
6	5月31日	水 17:00	急性腹症	外科 杉浦光太
7	6月7日	水 17:00	頻拍性不整脈への対応	循環器内科 小野 剛
8	6月14日	水 17:00	頭部外傷後脳卒中の画像評価及びナートの注意点	脳神経外科 佐藤健一郎
9	6月15日	木 17:00	縫合セミナー	消化器外科 大司俊郎
10	6月22日	木 17:00	胸腔ドレーンの挿入方法	呼吸器外科 坪島顕司
11	6月28日	水 17:00	救急外来でのXPオーダー・読影・シーネ固定	整形外科 高桑拓也
12	7月5日	水 17:00	末梢静脈栄養、電解質Na・K	大塚製薬
13	7月12日	水 17:00	TPN、EN、LP	大塚製薬
14	7月19日	水 17:00	処方設計	大塚製薬
15	7月25日	火 17:00	CV挿入(シミュレーター)	外科 野谷啓之
16	9月6日	水 17:00	漢方について	株式会社ツムラ
17	9月20日	水 17:00	腹部エコーについて	消化器内科 小林康次郎
18	9月28日	木 17:00	内分泌について	糖尿病・代謝内科 竹内崇人
19	10月4日	水 17:00	糖尿病について	糖尿病・代謝内科 新津吉博
20	10月13日	金 17:00	心エコー	循環器内科 若林隼人
21	10月16日	月 17:00	心エコー(ハンズオン)	循環器内科 若林隼人
22	10月25日	水 17:00	慢性腎臓病において注目される新しい治療戦略	腎臓内科 林 俊秀
23	11月1日	水 17:00	眼科疾患について	眼科 二神 創
24	11月8日	水 17:00	気管挿管(ハンズオン)	麻酔科 朝木千恵
25	11月22日	水 17:00	膠原病について	膠原病・リウマチ科 平野史生
26	12月6日	水 17:00	循環器疾患について	循環器内科(専攻医) 吉満優希
27	12月20日	水 17:00	皮膚科救急疾患について	皮膚科 岩渕千雅子
28	12月27日	水 17:00	ACPについて	ACPチーム 三好恵美
29	1月10日	水 17:00	人工呼吸器について	研修医(2年目) 長田大輝
30	1月17日	水 17:00	泌尿器科救急マニュアル	泌尿器科 田中将樹
31	1月31日	水 17:00	救急医療現場での自殺未遂患者への対応の検討	研修医(2年目) 西岡沙莉亜
32	2月9日	金 17:00	介護保険制度について	医療ソーシャルワーカー 菅原由樹

電子カルテ・診療記録委員会

文責／和田義明

◎目的

電子カルテでの診療録の記載内容のチェックを行うとともに、記載内容の向上を図り、医療の質の向上を目指す。クリニカルパスの作製を奨励しその承認を行う。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：和田義明(診療部)

診療部：高橋康訓

電子カルテ室：畑山築雄

医療技術部：原 慶、谷口亜図夢、小河原由佳

看護部：藤原美佐江

事務部：橋本史子、永井利佳、庄司遥花、佐藤美和、

白木千恵、長田 瞳

◎開催日

最終火曜日、午後5時 この他に随時開催

◎活動報告

- 1.定期的にカルテチェックを行い記載の実態を確認し改善点を指摘した。
- 2.クリニカルパスの実施を奨励し、腎生検、泌尿器科PVP、TUR-Pパスなどの新規作成、産科などの現状パスの改訂・承認を行った。
- 3.内視鏡検査説明用紙などの改訂および検討を行った。

- 4.電子カルテの記載につき検討を行い、医師への啓発を行い、記載率の向上を図った。
- 5.チェックリスト、検査説明文書の改定を行った(経食道心エコー、化学療法副作用、入院時健康管理、造影CT検査など)。
- 6.佐倉に保存していた旧カルテ整理と当院への移転を行った。
- 7.電子カルテサーバーの更新について検討を行い、実施の支援をした。
- 8.DPCの紙運用から電子カルテ内での運用への多数科での移行を行った。
- 9.DNARに関する同意書の内容記録の運用につき検討した。
- 10.適時調査への対応を行った。
- 11.診療報酬改定での診療録管理体制加算への対応につき検討した。

◎今後の目標

診療録の適切な記載と電子カルテによる更なる各部門の情報共有を図り、チーム医療をさらに促進させる。記載入力 of 簡素化を図り業務の遂行を早め残業を減らす。

虐待対策委員会

文責／佐藤敦子

◎目的

児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者虐待など(疑いを含め)に対して迅速に対応し、組織的な対処を行うこと。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：佐藤敦子(診療部)

診療部：原科純一、松下達彦、三浦孝夫

看護部：武井英美、中村理恵、村上 歩

医療安全管理室：杉山 恵

(ジェネラルリスクマネージャー)

診療支援部(MSW)：平田美乃里、田村 唯

事務部：加藤みなみ

◎開催日

定例：第3火曜日(奇数月)、午後5時

臨時：緊急の問題事例が発生したときに委員会召集

◎活動報告

虐待対策委員会7回開催(緊急招集1回)

全職員向け『医療機関における虐待対策』2023年度職員研修をYou TubeでWeb開催した。

虐待対策委員会の活動報告と対応時の注意点を確認した。対策マニュアルの見直しをし、新たなフローチャー

トを作成した。虐待を受けている患者がDVであることを認識し、気軽に相談を行えるように院内のトイレや待合室にDV相談カードや相談窓口のチラシを設置している。

虐待事例：

【外来事例10件】加害者：夫婦1件、子3件
警察介入4件、行政連絡2件

【入院事例12件】加害者：子11件、兄妹1件、
行政連絡8件、警察介入1件

高齢者への子からの身体的虐待、精神的虐待、ネグレクト事例が目立った。家庭支援センターや安心健やかセンター等への報告をし、退院後の在宅環境調整などを行った。

外来事案では夫婦間の身体的・精神的虐待が多く、DV相談カードや相談窓口のチラシを渡し、警察等への連絡を行なった。

◎今後の目標

虐待対応フローチャートを周知して、早期対応、連絡体制を確立する。様々な虐待に対する職員の知識、理解を深める活動を行い、被虐待患者の早期発見に努める。院外関係機関(児童相談所、家庭支援センター、あんし

んすこやかセンター、警察など)との連携体制を確立する。事例検証と症例蓄積を重ねて、迅速で適切な対応により重大事件の発生を予防する。医師、看護師以外の職員にも虐待問題に関する理解と周知を徹底し、職員全体

で早期発見、迅速対応ができる体制を作る。疑い症例を発見した職員には躊躇せず報告してもらい、委員会が判断と対策を検討する。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

国際対応委員会

文責／大石陽子

◎目的

円滑かつ安心安全に外国人患者を受け入れるための環境整備および職員に対する言語・異文化に関する研修を企画する。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：大石陽子(診療部)

看護部：山東真由子

(外国人患者受入れコーディネーター)、

原賀由美子

(外国人患者受入れコーディネーター)、

古荘 瑩、鹿志村杏美、北村情善、磯目真理子

医療技術部：小林俊介、田角泰子、矢口直美

事務部：下山奈巳、

安斎由美(外国人患者受入れコーディネーター)

◎開催日

第2水曜日、午後4時

◎活動報告

1.外国人患者受け入れ状況データ収集(外来受診者数・入院数・対応言語数)

2023年度外来受診者数2,051名、入院患者数61名、対応言語は日本語、英語、中国語、韓国語、インドネシ

ア語、スペイン語、ミャンマー語、タイ語、ウクライナ語、ドイツ語、ヒンディー語、フランス語、ベトナム語、モンゴル語、シンハラ語、ロシア語であった。他言語対応を必要とする症例は798名であった。

2.医事課

英語の支払い誓約書作成。

3.リンクナースによる看護環境整備

リンクナース会の定期開催、リンクナース通信(月一回)発行、外国人対応におけるワンポイントレッスンの定期開催。中国語・韓国語版患者満足度調査アンケート作成および英語版患者満足度調査アンケート内容の改善。実際に行われた通訳に対する患者の理解度などの通訳評価および症例検討会を行った。

4.薬剤科における外国人対応データ収集・環境整備

2023年度他言語による薬剤説明対応件数は229件であった。電子カルテ内に薬剤関連の英語患者説明書の拡充。

◎今後の目標

- ・国際対応ハンドブックの作成。
- ・2024年度JMIP更新に向けた準備。

薬事委員会

文責／北岡 晃

◎目的

医薬品の適正な採用、管理、運用を図ることを目的とする。採用(臨時購入・院外限定使用の承認も含む)、採用削除、適正使用と管理、医療安全、後発品の採用、製造販売後調査受け入れ、その他必要と認める事項について審議する。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：森田瑞生(診療部)

診療部：佐藤敦子

医療技術部：北岡 晃、西村理恵子

看護部：志村千秋

事務部：佐藤佳子、渡邊侑李

◎開催日

第4月曜日、午後4時30分

◎活動報告

・新規採用申請30件(新成分24件、新規後発品2件、剤形

変更4件)について審議を行い、29件承認、1件未承認とした。また、販売中止・供給問題による変更13件、後発品への切り替え5件、バイオ後続品への切り替え3件、院外限定使用41件、削除薬48件について審議を行った。

・臨時購入申請(251品目)、自主回収・供給停止、有害事象発生、製造販売後調査の進捗状況について確認を行った。

・後発医薬品使用割合は、84.8%(2023年3月)から88.7%(2024年3月)に増加し、後発医薬品使用体制加算2(85%以上)を継続した。一方、供給問題等による臨時的な取り扱いを適応した場合の割合は、2024年1月、2月、3月に、それぞれ91.4%、91.9%、91.5%を達成し、3か月間90%以上継続し、供給問題は収束しないことが予想されるため2024年4月より後発医薬品使用体制加算1(90%以上)を申請することとした。

- ・医薬品の採用申請の観点から採用区分が正しく共通理解できるように「採用」から「正規採用」に、「仮採用」から「臨時購入」に、「院外のみ採用」を「院外限定使用」に名称変更し、薬事委員会規程、申請書様式の改定を行った。
- ・正規採用後1年間の使用実績調査を行い、使用実績が僅少な薬剤について採用継続の可否の検討を行った。
- ・最新版の「今日の治療薬2024」の切り替えを半数の部署で行った。

◎今後の目標

- ・病院機能評価で品目数の削減を指摘されているため採用薬の整理を行う。
- ・後発品への切り替えを進め、後発医薬品使用体制加算1(90%以上)の算定を行う。
- ・同一薬効が複数ある薬剤についてフォーミュラリーを導入して整理を進める。

化学療法委員会

文責／小倉敬史

◎目的

がん化学療法の安全性と有効性を確保し、抗がん剤の適正使用を推進する。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：森田瑞生(診療部)

診療部：大石陽子、大司俊郎、田中将樹、仁平光彦、山本慶郎、竹内孝夫

看護部：堤 容子、林季乃実、橋ヶ谷史沙、金見優佳、千葉博子、中西君代

医療技術部：小倉敬史、松田沙貴子、佐藤遼平、篠原勇介、猪狩亜希子

事務部：下山奈己

◎開催日

第4火曜日、午後5時

◎活動報告

- ・新規レジメンの審査、承認、登録を行った。
 - カルボプラチン+ジェムザール+キイトルーダ療法(乳癌)
 - アバスチン+タルセバ療法(非小細胞肺癌)
 - キイトルーダ+インライタ療法(腎細胞癌)
 - キイトルーダ+カルボプラチン+タキソール療法(乳癌)
 - エピルビシン+エンドキサン(Dose-denseEC/ddEC)療法(乳癌)
 - ジェムザール+シスプラチン+イミフィンジ療法(胆道

癌)

5-FU+シスプラチン+オブジーボ療法(食道癌)

- ・化学療法時の制限食は2種類(好中球数500以上、500未満)のオーダーが可能であったが、統一を行い化学療法食に変更し運用を開始した。
- ・タキソールを含むレジメンのアレルギー予防のために使用するプレメディケーションを、レスタミン錠からポララミン注へ変更し運用を開始した。
- ・採用医薬品であるジーラスタ皮下注をバイオ後続品であるベグフィルグラスチム注BSへ切り替えを行い、バイオ後続品導入初期加算の算定を開始した。
- ・5-FUをDIBインフューザーで投与した際に、予定より早期に終了した事例があったため、メーカーに調査を依頼した。5-FUの温度上昇(25℃以上)や薬液濃度低下により流速が早くなるとの回答があり、委員会のメンバーで共有した。また投与中に残液量を正確に把握することができるニュートンメーターを各病棟、外来へ配置した。
- ・マイトマイシン注の膀胱腫瘍における膀胱内注入の適応が削除となったことを受け、当院での使用が見込まれなくなったため採用を削除することを決定した。

◎今後の目標

- ・後発医薬品およびバイオ後続品の切り替え検討。
- ・医薬品供給体制に応じた使用レジメンの提案。

その他委員会

名称	委員長	目的	開催日
医療ガス安全管理委員会	朝木千恵 (診療部)	医療用ガス(診療用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等)設備の安全管理を図り、患者の安全確保を目的とする。	不定期
機器整備委員会	松原正明 (診療部)	医療機器、用具および什器の新規購入、更新、廃棄について審議する。	第3月曜日
手術室運営委員会	朝木千恵 (診療部)	手術室の安全管理、清潔管理、機器整備、各科の意見交換等を行い、手術室の合理的運営を図る。	第3月曜日
働き方委員会	安野正道 (診療部)	2024年4月施行「医師働き方改革」制度に向けて、労働時間短縮(28時間連続勤務制限 9時間インターバル)計画策定と院内への周知を行う。	第4月曜日
救急・外来運営委員会	石井一之 (診療部)	玉川病院における外来業務に関する問題点を協議し、解決していくことを目的とする。救急医療についての記録、整備についても検討する。	第4月曜日
栄養給食委員会	竹内崇人 (診療部)	治療の一環として提供する病院給食の効率的な運営や改善を図る。	第4月曜日
診療報酬委員会	山本慶郎 (診療部)	診療報酬請求に対する減点対策を行うとともに、保険診療の適正化と円滑な運営を図る。	第3火曜日
衛生管理委員会	安野正道 (診療部)	職員の健康障害の防止、健康保持促進、労働災害の防止に係る対策を検討する。	第3火曜日
NST委員会	大司俊郎 (診療部)	栄養評価・栄養状態の改善を通して、治療効果の向上・感染症の減少・在院日数の短縮・医療費の削減・QOLの改善など医療レベルの向上を図ることを目的とする。	第4火曜日
広報委員会	二神 創 (診療部)	広報誌を発行することで、当院の情報を開業医や患者に提供し、当院の利用促進を図る。ホームページを日常的に管理し、情報の新規掲載や更新を行う。	第2水曜日
メディカルコントロール委員会	石井一之 (診療部)	医学的観点から救急救命士の業務活動の質を保障することにより、患者の安全を担保することを目的としている。	第2水曜日
病床機能管理委員会	森田瑞生 (診療部)	入院・退院・平均在院日数等を考慮し、円滑な病棟運営を目的とする。	第3水曜日
防火及び災害対策委員会	奥田直樹 (診療部)	災害時に院内の安全確保と医療機能を維持すること、災害拠点病院として適切な医療救護活動を行うために災害対策と防災管理体制を整備する。	第3水曜日
褥瘡対策委員会	岩淵千雅子 (診療部)	入院患者の褥瘡の状況を調査し、適切な対策を立て、治療効果を評価する。	第4水曜日
輸血療法委員会(自己血輸血委員会)・臨床検査適正化委員会	柳澤克昭 (診療部)	輸血療法の安全確保と適正化を図る。	第4水曜日
救命救急講習委員会	齋藤和幸 (診療部)	成人の突然の心停止に対する「最初の10分間」の対応とチーム蘇生方法について、日本救急医学会認定ICLSコースを通し、病院職員全体に学んでもらうことを目的とする。	第4水曜日
認知症ケア委員会	日熊麻耶 (診療部)	認知症に関わる知識の浸透、認知症患者に対するケアの改善を図る。	第1木曜日
身体拘束検討委員会	日熊麻耶 (診療部)	院内での身体拘束の実施状況を把握するとともに、三原則の啓蒙や早期解除の取り組みを行い身体拘束の最小化を図ることを目的とする。	第3木曜日
臨床倫理委員会	坪島顕司 (診療部)	当院で行われる医療行為について、ジュネーブ宣言の主旨に沿い倫理的観点から必要な事項を整理し、また職員から求められる新たな問題に対して審査・助言を行う。	第4木曜日
緩和ケア委員会	田中将樹 (診療部)	緩和ケアに関わることの実施、啓蒙活動を行う。	第4金曜日
RST委員会	竹内孝夫 (診療部)	人工呼吸器を装着している患者(NPPV、HFTも含む)に対し、質の高いケアを提供するとともに、適切な呼吸管理が継続できるようにすることを目的とする。	第4金曜日

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

IV 福利厚生

保育室(ライクアカデミー株式会社)・総務課

文責/伊藤 一

スタッフ(2024.3現在)

室長1名、副室長1名、その他スタッフ8名

活動状況

玉川病院保育室は職員(常勤・非常勤)の勤務時(日勤・夜勤)の利用が可能で、0歳児から5歳児のお子さんに対

象となる。低学年の就学児も理由により可能な場合もある。保育室では月1回、消防避難訓練や事故対応訓練なども実施している。また感染対策委員は感染対応指導に添った感染症対策や対応を行っており感染症発生時の報告や日々の業務報告を担っている。さらに2ヶ月毎に総務課、看護部と保育室スタッフにて意見交換を行っている。

2023年度保育室利用状況・累計

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	児童	合計
2023年 4月	0	39	32	5	9	1	6	92
2023年 5月	0	38	27	0	9	3	6	83
2023年 6月	0	42	27	1	8	0	8	86
2023年 7月	0	34	26	6	5	1	7	79
2023年 8月	1	20	29	12	9	2	0	73
2023年 9月	7	22	28	0	10	1	5	73
2023年10月	31	23	25	0	9	1	9	98
2023年11月	34	23	24	0	13	1	2	97
2023年12月	30	25	28	4	10	1	8	106
2024年 1月	45	17	27	0	9	3	7	108
2024年 2月	39	24	28	0	11	1	4	107
2024年 3月	45	40	28	5	11	4	1	134
合計	232	347	329	33	113	19	63	1,136

◎保育時間

日勤保育時間 8:00~18:00

夜勤保育時間 16:00~翌10:00

◎保育定員

33名

◎保育料

1回につき1,000円(最大金額 20,000円/月)

希望者には、朝・昼・夕の給食やおやつを提供を行っている。(朝食200円、昼・夕250円、おやつ100円)

◎1日のスケジュール

- 9:00 朝の会
- 9:30 おやつ
- 10:00 晴天時はお散歩、雨天時はお絵かきや製作
- 11:30 昼食
- 12:00 お昼寝
- 15:00 午後のおやつ
- 16:00 自由あそび

◎年間行事予定

- 5月 春の遠足・子供の日
- 6月 保護者懇談会
- 7月 七夕
- 9月 お月見
- 10月 秋の遠足
- 11月 保護者懇談会
- 12月 クリスマス会
- 1月 お正月遊び
- 2月 豆まき
- 3月 ひな祭り

今後の目標

引き続き利用者の不安がないように、安全で楽しく過ごせる環境作りを心掛ける。